

# 青柳悦子教授 略歴 研究業績

## 【略歴】

- 1987年6月 筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科文学専攻単位取得退学  
1987年7月～1991年3月 筑波大学助手文芸・言語学系  
1991年9月～1992年10月 社会科学高等研究院（フランス）言語科学研究科  
DEA 課程  
1992年4月～1993年4月 日本学術振興会特別研究員  
1993年5月 筑波大学講師 現代語・現代文化学系  
1999年1月 同上 助教授 現代語・現代文化学系  
2004年4月 国立大学法人筑波大学大学院人文社会科学研究科助教授  
2007年4月 同上 准教授  
2008年3月 博士（文学）取得（筑波大学）  
2008年4月 国立大学法人筑波大学大学院人文社会科学研究科教授  
2012年4月 同上 人文社会系教授  
2014年4月～2016年3月 人文・文化学群比較文化学類長  
2020年4月～2024年3月 総合学域群第1類長  
2024年3月 国立大学法人筑波大学人文社会系教授退職

## 【研究業績一覧】

### 著書

- 1 『デリダで読む『千夜一夜』——文学と範例性』〔単著〕、新曜社、2009年
- 2 『あらすじと読みどころで味わう 世界の長編文学』〔共著、土田共則編〕、新曜社、2005年。 \* 韓国語訳（ソウル）、2006年
- 3 『文学理論のプラクティス——物語・アイデンティティ・越境』〔土田知則との共著〕、新曜社、2001年。 \* 中国語訳（桂林）、2023年
- 4 『現代文学理論——テキスト・読み・世界』〔土田知則・伊藤直哉との共著〕、新曜社、1996年

## 学術論文

- 1 「アルジェリア漫画史からみる近年の日本式マンガ創作の意義」、『マンガ研究』（日本マンガ学会）第30号、2024年3月予定、pp.8-40
- 2 「日常の表現の渴望と国民共生意識の醸成——アルジェリアの日本式マンガ創作」、山口恵里子・対馬美千子編著『日常のかたち——美学・建築・文学・食』、筑波大学出版会、2023年4月、pp.305-336
- 3 « L'amour né de l'impossibilité de l'amour : face à la mère et aux Arabes », *Études camusiennes*, no.15 (Actes de la Rencontre), Société japonaise des Études camusiennes, mai 2022, pp.99-111
- 4 「ピエ・ノワールのマンガ作家フェランデズによるアルジェリア表象——『オリエント画帖』に見る複眼的視点」『文学研究論集』（筑波大学比較理論文学会）第37号、2019年3月、pp.1-20
- 5 “The War of Memories and Pieds-Noirs Diversity: French Cartoonist Jacques Ferrandez and His Pluralist Vision”, *Proceedings of The II. International Conference of the Asian Federation of Mediterranean Studies Institutes* (December 23th, 2018 at University of Kyoto), pp.145-151
- 6 「『貧者の息子』の語り（1）——物語における現在形の多様な効果」『文藝言語研究』（筑波大学大学院人文社会科学研究所文芸・言語専攻）第71号、2017年3月、pp.1-69
- 7 「1938-1939年のカピリー報道——カピリー人作家フェラウンの出発点として」『文学研究論集』（筑波大学比較理論文学会）第35号、2017年3月、pp.1-21
- 8 「ムルド・フェラウン、歪められた作家像の再検討のために——E・ロブレスとの関係を中心に」、松田幸子・笹山敬輔・姚紅編『異文化理解とパフォーマンス』、春風社、2016年、pp.323-348
- 9 « La narration instable et une vision « trans-subjective » dans *L'Étage invisible* d'Emna Belhaj Yahia: un roman tunisien vu selon l'optique japonaise », 『外国語教育論集』（筑波大学外国語センター）第37号、2015年3月、pp.63-73
- 10 “An Analysis of the temporal system in Japanese narrative text: On the Taxis Mode Narration and its Functions”, in *Expanding the Frontiers of Comparative Literature: A Return to the Transnational Tradition (Proceedings of 2010 ICLA [International Comparative Literature Association] Seoul Congress)*, Vol. I, Ed. Sung-Won Cho Seoul : Chung-Ang University Press, 2013,

pp.287-294

- 11 「フェラウン『記念日』論——〈自己更新〉の文学として」『文藝言語研究 文藝編』（筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻）第63号、2013年3月、pp.1-62
- 12 « Sur *La Cité des roses* (ou *L'Anniversaire*), le récit posthume de Mouloud Feraoun; les jeux de temps dans le texte », *Proceedings of the 2<sup>nd</sup> Algeria-Japan Academic Symposium* (17 May 2012, at University of Science & Technology of Oran Mohamed Boudiaf in Oran, Algeria), The 2nd Algeria-Japan Academic Symposium Organizers, October, 2012, pp.27-34
- 13 「ムールード・フェラウン『貧者の息子』にみる間主体性——テキストの反語性と新たな人間観の提示」『文藝言語研究 文藝編』（筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻）第61号、2012年3月、pp.1-65
- 14 “An Investigation of “Self” in The Poor Man’s Son by Mouloud Feraoun: Literature and Inter-Subjectivity Today”, *Proceedings of TJASSST11: Tunisian Japanese Symposium on Science, Society and Technology* (November 11th-13th 2011, at Saphir Palace, Yasmine Hammamet, Tunisia), 2011, CD-ROMおよびインターネット版
- 15 「日本語小説言語の特性——「地の文」に着目して」、『日本語教育連絡会議論文集』（日本語教育連絡会議事務局）vol.21、2009年5月、pp.118-127
- 16 「日本近代小説の成立と語りの遠近術——「地の文」における「タ型」と「ル型」の交替システム」『文藝言語研究 文藝編』（筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻）第55号、2009年3月、pp.184-230
- 17 「日・英・仏語の物語文と世界認識——タクシスの構成法の開発に向けて」、『ことば工学会第22回資料』（人工知能学会第2種研究会）、2006年3月、p.22-31
- 18 「日・英・仏語における物語言語ルールの比較」、『比較文学研究』（筑波大学第二学群比較文化学類）第2号、2006年3月、pp.1-12
- 19 “Repetitiveness in the *Arabian Nights*: Openness as Self-Foundation”, in Yuriko Yamanaka and Tetsuo Nishio eds., *The Arabian Nights and Orientalism, Perspectives from East and West*, London: I.B.Tauris, 2006, pp.68-90
- 20 「『千夜一夜』の主人公像と世界観——無能と人間肯定」『文藝言語研究 文藝編』（筑波大学大学院人文社会科学研究科文芸・言語専攻）第48号、2005年10月、pp.35-108
- 21 「チュニジアの文学状況——複数文化主義の伝統」、『国際シンポジウム交差す

- るアジア・北アフリカ文化・科学技術研究 報告論文集』筑波大学北アフリカ研究センター、2005年、pp.121-129
- 22 小方孝・青柳悦子・阿部明典・岩垣守彦・金井明人・鍋島弘治郎・森田均「情報と物語・文学をめぐる共同討議 (2)」、『情報処理学会研究報告 人文科学とコンピュータ 2005-CH-67』、2005年、pp.23-30
- 23 「チュニジアにおける多言語状況と文学」『外国語教育論集』（筑波大学外国語センター）第26号、2004年3月、pp.141-156
- 24 「物語における重層話法——試論」『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系）第65号、2004年3月、pp.171-225
- 25 「川上弘美——様態と関係性の物語言語化」、『国文学解釈と鑑賞』別冊『女性作家《現在》』（菅聡子編集）、2004年3月、pp.210-218
- 26 「『アラビアン・ナイト』にみる仮設的文学作品の可能性」『文化の仮設性——建築からマンガまで（記号学研究20）』日本記号学会編、東海大学出版会、2000年、pp.183-194、単著。
- 27 「『アラビアン・ナイト』における物語行為——テキストにみるその非特定性と多重性」『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系）第52号、2000年1月10日、pp.151-204
- 28 « La Rhétorique et le Japon: l'engouement pour l'éloquence au début de l'ère Meiji », in *Écritures France-Japon (Recherches Valenciennes 1)*, Presses Universitaires de Valenciennes, 1999, pp.193-204
- 29 「『アラビアン・ナイト』の逆説的世界——そのテキスト特性についての予備的考察」『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系）第50号、1999年3月、pp.27-72
- 30 「提喻的めまい——ジェラルド・ジュネットにおける文学現象の探究」、『グローバル化／ナショナリズム（記号学研究19）』日本記号学会編、東海大学出版会、1999年3月、pp.167-178、単著。
- 31 「アポリネールにおける起源の欠如——言語と自己への距離」『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系）第49号、1999年1月、pp.129-158
- 32 「西欧レトリックの伝統——その発生と延命条件」、『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究、研究報告書 平成9年度』I (Part 1)、1998年3月、pp.19-33
- 33 「ディスクールの思想家バフチンによる他者論——フランス（ポスト）構造主義の文脈との関連」、阿部軍治編『バフチンを読む』、日本出版協会、1997年12月、pp.197-218

- 34 「ジャン＝ピエール・リシャールのテーマ批評——その構造論的解明（1）～（3）」、『言語文化論集』（筑波大学現代語・現代文化学系）第40～42号、1995年3月、pp.59-74；1995年7月、pp.99-119；1996年2月、pp.49-67
- 35 « Le mécanisme de la critique de Jean-Pierre Richard: Analyses de la méthode dans “La création de la forme chez Flaubert” », 『千葉大学フランス文学研究』第4号、1993年5月、pp.94-126
- 36 「焦点化についての考察」、『文藝言語研究』（筑波大学文芸・言語学系）第18号、1990年9月、pp.45-64
- 37 「G・ジュネットの詩的言語理論——言語模倣説とその二律背反」、『文藝言語研究』（筑波大学文芸・言語学系）第15号、1989年2月、pp.115-128
- 38 「言語の恣意性？有縁性？——G・ジュネット『ミモロジック』を契機として」、『文藝言語研究』（筑波大学文芸・言語学系）第14号、1988年9月、pp.137-164
- 39 「物語行為の時間」、『茨城キリスト教大学紀要』第18号、1985年1月、pp.119-125
- 40 「Une source possible de *La Chute*——デ・フォレ『おしゃべり』との関係をめぐる考察」、『筑波大学フランス語フランス文学論集』第2号、1984年12月、pp.89-100

## 訳書

- 1 ブアレム・サンサール『ドイツ人の村——シラー兄弟の日記』水声社、2020年
- 2 ジャック・フェランデズ『バンド・デシネ 客』彩流社、2019年
- 3 ジャック・フェランデズ『バンド・デシネ 最初の人間』彩流社、2019年
- 4 ジャック・フェランデズ『バンド・デシネ 異邦人』彩流社、2018年
- 5 ムルド・フェラウン『貧者の息子——カピリーの教師メンラド』水声社、2016年
- 6 エムナ・ベルハージ・ヤヒヤ『青の魔法』彩流社、2015年
- 7 エムナ・ベルハージ・ヤヒヤ『見えない流れ』彩流社、2011年
- 8 マリナ・ヤゲーロ『言葉の国のアリス——あなたにもわかる言語学』夏目書房、1997年
- 9 ジェラルド・ジュネット『フィギュールII』〔共訳〕花輪光監訳、書肆風の薔薇、1991年
- 10 ジェラルド・ジュネット『ミモロジック』〔共訳、全体の監修作業も担当〕花

輪光監訳、書肆風の薔薇、1991年

- 11 ジェラルド・ジュネット『フィギュール I』〔共訳〕花輪光監訳、書肆風の薔薇、1989年
- 12 ジェラルド・ジュネット『物語の詩学——続・物語のディスクール』〔共訳〕書肆風の薔薇、1985年
- 13 『詩の記号学のために——シャルル・ボードレールの詩篇〔猫たち〕を巡って』〔共訳〕花輪光編、書肆風の薔薇、1985年

## 受賞

第15回渋沢・クローデル賞、ルイ＝ヴィトン・ジャパン特別賞、1998年7月7日（日仏会館・毎日新聞社主催、フランス大使館・渋沢青淵記念財団後援）〔マリナ・ヤゲーロ『言葉の国のアリス——あなたにもわかる言語学』の翻訳に対して〕。